

誰でも
参加OK /

地域が**元気**になる **脱温暖化** **全国大会** -2016- in 小田原

― 市民と経済界の

つながりが地域を変える ―

10月21^(金)日 - 22^(土)日

小田原お堀端
コンベンションホール

神奈川県小田原市栄町1-14-48 ジャンボナックビル5F

同時開催！ /

食と
音楽の
夕市

21日(金)のみ 15:30 ~

食・エネ目録で
小田原難城大作戦！？

場所：小田原城 新門広場

18:30 ~ 特別セッション
(交流会)

参加費 無料

申込み <http://ecoric.net>

090-7008-4455
suzu@air.ocn.ne.jp
(実行委員長代行：小山田)



▶上記ロゴマークは
デザイナー・梅原真志の
ご厚意によるものです

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター (JST-RISTEX)「創発的・地域づくりによる脱温暖化」プロジェクト
一般社団法人創発的・地域づくり・連携推進センター (ECO-RIC: Emerging and Collaborative Regional Innovation Center)

共催：小田原市 / 一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議

後援：総務省 / 文部科学省 / 農林水産省 / 国土交通省 / 環境省 / 全国知事会 / 全国市長会 / 全国町村会 / 全国都道府県議会議員会
全国市議会議員会 / 全国町村議会議員会 / 神奈川県 / 南足柄市 / 中井町 / 大井町 / 松田町 / 山北町 / 開成町 / 箱根町 / 真鶴町
湯河原町 / 小田原箱根商工会議所 / 桐生商工会議所 / 他、申請中含む

協力：神奈川民報社 / タウンニュース / ポスト広告



「地域が元気になる脱温暖化」 全国大会 2016in 小田原 ～市民と経済界のつながりが地域を変える～

■開催趣旨

この国が持つ地域の最大の魅力は各々が縋々、紡いで来た歴史・風土に根ざした場所文化にあります。多様性を尊重し、自然への謙譲の心を忘れない世界観が日本という風土を創っています。

東日本大震災以降、大規模・集中型システムから小規模・地域分散型システムへの転換が地域で見られつつある中、地方創生という言葉を待つまでもなく、地域の主体性・自主性の回復と、『地域が元気になる』取り組みという視点において、これを環境やエネルギーという切り口で推進しようとする動きが徐々に推進されました。これらを更に爆発的に推進するためには、地域の様々なステークホルダーがつながり、顔の見える関係の中で、その地域でしか出来ないことを追求し、相互に連携しながら創り上げていくプラットフォームの構築が急務であります。

『お金のものさし』から『命とくらしのものさし』へ。もはや価値観を転換させることでしかこの国の様々な地域課題や地球規模の課題は解決されないでしょう。今後、確実になる様々な地球環境制約下の中で、どう『心豊かに』各々が生活できるか？その手法を多くの皆さまと議論したいと考えます。

■主催：

「地域が元気になる脱温暖化」全国大会 2016 in 小田原 実行委員会
国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST-RISTEX)
「創発的地域づくりによる脱温暖化」プロジェクト
一般社団法人 創発的地域づくり・連携推進センター(ECO-RIC : Emerging and Collaborative Regional Innovation Center)

■共催：

小田原市、一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、桐生市、NPO法人北関東産官学研究会、群馬大学大学院理工学府、早稲田大学重点領域研究機構、龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター、大阪市立大学大学院創造都市研究科

■後援：

総務省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会、神奈川県、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、小田原箱根商工会議所、桐生商工会議所、公益社団法人日本工学会、公益財団法人国際交通安全学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本エネルギー学会、日本環境学会、群馬大学エコエネ研究会、群馬大学次世代EV研究会

■協力：

神奈川県立小田原ビジネス高等学校、井上酒造株式会社、株式会社神静民報社、株式会社タウンニュース社、株式会社ポスト広告、FM小田原株式会社、株式会社桐生再生、NPO法人小田原ガイド協会、さがみ信用金庫

※ 上記ロゴマークはデザイナー梅原真氏のご厚意によるものです。

■主催者代表挨拶

宝田 恭之

研究開発成果実装支援プログラム「創発的地域づくりによる脱温暖化」代表
一般社団法人創発的地域づくり・連携推進センター(ECO-RIC) 理事
群馬大学大学院・理工学府・環境創生部門 教授



堀口 健治

一般社団法人創発的地域づくり・連携推進センター(ECO-RIC) 代表理事
早稲田大学 名誉教授



我々は化石資源の大量消費によって文化的な生活を手に入れた反面、329 億 t (2013 年)もの二酸化炭素を放出しています。人類が大量にエネルギーを消費し始めたのは産業革命以後です。特に先進国での放出が多く、年間の二酸化炭素放出量は一人あたりに換算すると、米国 16t、日本 10t、中国 7t、インド 1.5t です。公平にエネルギーを分配し、世界全体の繁栄と平和を構築していくことは極めて重要な課題です。一方、我が国では、エネルギー消費、経済活動および人口の首都圏集中により、地方の過疎化や地域コミュニティの崩壊、コモンズの喪失、地方自治体のガバナンス低下なども生じています。

JST-RISTEX「創発的地域づくりによる脱温暖化」プロジェクト(平成 26~28 年度)は、自治体等地域における脱温暖化、再生可能エネルギー導入等の取り組みを支援し、自立的で持続可能な地域づくりを促す仕組みを構築するものです。本プロジェクトは、既に終了した「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」プロジェクト(平成 20~25 年度)で得られた成果を統合的に社会実装するものです。

本プロジェクトでは社会実装ツールとしてこれまでの成果をパッケージ化するとともに、成果・情報発信と交流の場としての全国大会を実施しています。本プロジェクトの中での全国大会の位置づけは極めて重要と認識されています。昨年は桐生において実施し、楽しく豊かなコミュニティを構築するための産官学民一体化の重要性、感性装置としてのスローモビリティ8輪バス(MAYU)の活用等について熱心な議論が展開されました。本年は小田原で全国大会を実施することとなり、地域エネルギー資源活用による地域経済循環やコミュニティ発展のための経済界の役割等について議論し、先進モデル都市としての小田原の情報を全国に発信したいと考えています。また、統合パッケージ普及・実装のためのプラットフォーム機能と長期的な社会普及を推進するために、一般社団法人「創発的地域づくり・連携推進センター」を立ち上げました。同社団法人は、会員自治体等の会費、公的資金の活用、大学等に対する域学連携拠点資金、連携企業からの CSR 的支援金などの導入により導入により自立化するものです。大会の成功はこのような動きを加速するものとなるでしょう。

小田原大会が実りあるものとなるよう、皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

■実行委員長挨拶

亀山 秀雄

「地域が元気になる脱温暖化」全国大会 2016 in 小田原 実行委員長
一般社団法人創発的地域づくり・連携推進センター(ECO-RIC) 理事
東京農工大学名誉教授



小田原での全国大会によるこそお越しくできました。まずは、実行委員会を代表して御礼申し上げます。

本大会は、平成20年に始まった JST-社会技術研究開発センターの事業「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域(堀尾正靱リーダー)に源を発し、平成26年からの「創発的地域づくりによる脱温暖化」研究領域(宝田恭之リーダー)に続き、平成26年に設立された一般社団法人創発的地域づくり・連携推進センターの酒匂川流域小田原支部(小山田大和支部長)へと繋がっていく一連の地域づくりの支援研究活動の上に立って未来志向で開催されるものです。

国は、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生総合戦略を進めています。本年度から特に事業推進と地方創生リーダーの育成・普及を重視し、稼ぐ力、地域の総合力、民の知見を働かせることが重要であるとしています。

その様な大きな地域創生の支援の流れの中で、本大会では、再生可能エネルギーの地産地消事業と地域の将来を担う人材育成を取り上げました。1日目のセッション1では、産業界が主体となってこの10月から電力の販売を開始した小田原・箱根エネルギーコンソーシアム事業を事例に取り上げました。パネル討論の中で、事業の誕生の経緯、組織化、事業内容の決定、市民や行政の関わりなどの情報をもとに、再生可能エネルギーの地産地消事業についての数百名からのアンケートによる意見を踏まえて、この事業が地域を元気にするためにはどのようにすれば良いのか、企業、市民、行政が今後どのような連携していけばよいかを話し合います。

セッション2では、地産地消の事業を制度や地域でお金を回す仕組みについて、小田原以外の成功事例をもとに議論を深めていきます。1日目最後の全体討論では、2つのセッションの議論を踏まえて、環境とエネルギーの課題を地域づくりにどう生かすのかを全国の事例紹介を交えて討論を行います。

今年の8月に出された地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議による中間報告では、

地域運営組織の取組を推進する上での課題と解決方向を次のように上げています。

(1)法人化の推進、(2)人材の育成・確保(地域づくりの自覚の形成やスキル磨き)、
(3)資金の確保、(4)事業実施のノウハウ等、(5)行政の役割、多様な組織との連携
これらの内容を、本会議で具体的に学び、自分たちの地域での解決のヒントを掴んでいただければ幸いです。

1日目の最も楽しく重要な会議は、小田原城銅門広場で開催します食と音楽の夜市です。小田原の食とエネルギーの地産地消の体験をして頂けるように心を込めて用意しました。

2日目は地域を活性化する上で最も重要な人材育成の在り方を取り上げます。桐生市で行われている未来創生塾の事例や小田原で行われている母と子が一緒になった取り組みなどの事例を聞きながら子どもたちのための地域の未来を創生するためにどのように人材育成をしていくかを議論します。

最後に総括セッションとして心豊かな暮らしにむけて今、私たちにできることは何かを行政、市民、大学のリーダーからのビジョンを伺いながら、参加者全員で議論いたします。最後に 2日間の議論を踏まえた小田原宣言を採択して終了いたします。

本大会が全国から参加された皆様に地域を元気にしようとする強い決意とビジョンをもってお帰り頂けることを願っております。

■開催自治体首長 歓迎の言葉

加藤 憲一
小田原市長



地域が元気になる脱温暖化 全国大会が、このたび、小田原市で開催されることを大変嬉しく思います。皆様を心から歓迎いたします。

さて、私たちの日常における生産活動や消費活動による自然環境への影響は、地球温暖化や生物多様性などに深く関係しており、環境への配慮や対策についての意識は年々高まっています。

本市では、「いのちを守る地域自給圏」の形成を市政の重要テーマに掲げており、東日本大震災の発生以来、安全安心なエネルギーによる社会の構築に向け、エネルギーの地域自給や資源の地域内循環など、持続可能な社会への転換を目指した取組みを、市民と行政の協働により進めてきました。

自治体としては全国に先駆け、再生可能エネルギーの利用を促進する条例施行や計画策定を行ったほか、民間事業者による公共施設屋根貸し、メガソーラーによる発電事業などをはじめとする、各種事業が展開されています。

エネルギーの問題は、我々の生活に直接影響するものであり、一人ひとりが自分事として考え、積極的に行動を起こしていく必要があります。国のエネルギー政策が従来の枠組みからなかなか一歩を踏み出せない中、それを突破していく道を切り拓くのは、地域の現場における実践であると考えております。

本大会が、参加される皆様の情報共有やネットワーク構築の場となり、地球温暖化対策というキーワードで地域が元気になる方策を探る機会となることを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり多大なるご尽力をいただきました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、お集まりの皆様のご健勝を祈念いたしまして、開催地としての歓迎の挨拶とさせていただきます。

■開催地域事業者 歓迎の言葉

鈴木 悌介

小田原箱根商工会議所 会頭

一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議 代表理事

鈴廣かまぼこグループ 代表取締役



「地域が元気になる脱温暖化全国大会 2016 in 小田原」の開催、おめでとうございます。

この素晴らしい集いを当地で開催していただけることに感謝を申し上げますとともに、心より歓迎いたします。

迷走を続ける国のエネルギー政策が逆走し始める中、「市民と経済界のつながりが地域を変える」という本大会のテーマはまさに時機を得たものでありましょう。本来、「経済」とはモノとサービスとお金のやり取りだけを示す言葉ではなく、「経世済民」つまり、世を治め、民を救うためのしくみであったはずであります。私たちが心豊かに暮らすための道具だったはずであります。経済活動の大前提は、あたり前の暮らしです。そのあたり前の暮らしを支えるエネルギーシステムは安全、安心、かつ経済合理性のあるものでなくてはなりません。

今、求められているのは、経済の本来の意味に立ち帰り、それぞれの地域において経済界と市民が手を携えて、その地域ならではのありべき姿を描き、その実現に向かって具体の活動を積み重ねていくこと、つまり実践です。その実践のネットワークを全国に広げてまいりましょう。そのための思いと知恵を共有するこの集まりのような取り組みは、ますます重要になってきています。

この小田原の地で、参加される全ての皆さまが古き友と語り、新しい仲間と出会い、お互いが学び合う、そんな充実した2日間を過ごしていただけますように願っております。

～プログラム（概要）～

■日時:

平成 28 年 10 月 21 日(金)～10 月 22 日(土)

■場所:

小田原お堀端コンベンションホール

【10 月 21 日(金)】

プライマリーセッション 10:00～10:40

開 会:一般社団法人創発的地域づくり・連携推進センター(ECO-RIC)代表理事 堀口 健治 氏

総括提言:「産官学民のつながりによる楽しいコミュニティと脱温暖化」

群馬大学大学院理工学府 宝田 恭之 氏

報 告:小田原開催の意義 ECO-RIC 酒匂川支部長 小山田 大和 氏

挨 拶:JST-RISTEX センター長 岩瀬 公一 氏

挨 拶:小田原市長(開催自治体首長) 加藤 憲一 氏

挨 拶:稚内市長 工藤 広 氏

セッション 1 「小田原・箱根エネルギーコンソーシアムは地域を元気にする！」10:40～12:10

コーディネーター: 亀山 秀雄 氏(東京農工大学)

パネリスト: 古川 剛士 氏(株式会社古川)

渡部 健 氏(湘南電力株式会社)

志澤 昌彦 氏(ほうとくエネルギー株式会社)

原 正樹 氏(小田原ガス株式会社)

堤 千恵子 氏(NPO 法人チルドリン)

谷口 信雄 氏(東京大学、生活協同組合パルシステム東京理事)

コメント: 中山 政行 氏(東京農工大学)

高橋 真樹 氏(ノンフィクションライター)

12:10～(昼食・ポスターセッション)～14:30

セッション 2 「市民・地域のやる気を支える！～制度・地域でお金が回る仕組みの視点から～」

14:30～16:00

コーディネーター: 岡田 久典 氏(早稲田大学)

パネリスト: 田中 信一郎 氏(公益財団法人自然エネルギー財団)

柳下 裕紀 氏(Aurea Lotus Co. Ltd CEO)

上野 ひろみ 氏(NPO 法人ちがさき自然エネルギーネットワーク代表理事)

コメント: 本山 博幸 氏(松田町長)

宇高 史昭 氏(NPO 法人木野環境、元京都市職員)

谷口 信雄 氏(東京大学)

総括コメント: 白石 克孝 氏(龍谷大学)

全体討論会「『環境』『エネルギー』をどう「地域」づくりに活かすか？」 16:00～18:00

司会: 岡田 久典 氏(早稲田大学) 櫻井 あかね 氏(龍谷大学)

パネリスト: 鈴木 悌介 氏((-社)エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議)

工藤 広 氏(稚内市長)

特別セッション(懇 親 会) 食・エネ自給で 小田原籠城大作戦！

18:30～

【10月22日(土)】

セッション3「子供たちのための地域のMI・RA・I」

～半径3メートルからはじめる暮らしかた革命をどう起こすか～ 10:00～11:30

報告①「プラットホームとしての未来創生塾 ―市民・経済界・地域に支えられて―」

報告②「未来創生塾の子供たちの発表」

報告③「小田原の子供たちからの発表」

ディスカッション「小田原でのプラットホームをどう作るのか」

コーディネーター: 永田 潤子 氏(大阪市立大)

パネリスト: 志村 成則 氏(志村屋米穀店)

鈴木 悌介 氏(小田原箱根商工会議所 会頭)

蒲生 美智代 氏(NPO 法人 チルドリン)

大木 勝男 氏(小田原市生涯学習課長)

総括セッション「『心豊かな』く・ら・しにむけて今、私たちにできること」 11:30～13:00

司会: 宝田 恭之 氏(群馬大学)

パネリスト: 加藤 憲一 氏(小田原市長)

大和田 順子 氏(ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表)

山納 銀之輔 氏(エコビレッジ専門家)

堀尾 正鞠 氏(東京農工大学)

小山田 大和 氏((一社)エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議事務局長)

小田原宣言の採択

e-COM8による地域視察(市内電動バス運行) 13:00～16:00

全国大会開催会場⇒(昼食)⇒鈴廣 ZEB ビル視察・買い物⇒小田原駅

＜先着24名 費用2,000円(昼食付)＞

通常エクスカーション 13:00～17:00

全国大会開催会場⇒下曾我ソーラーシェアリング⇒きらめきの丘大井⇒

開成町小水力発電施設⇒鈴廣 ZEB ビル視察・買い物⇒小田原駅

＜先着28名 費用1,000円(昼食付)＞

■資料内容

1. 総括提言:「産官学民のつながりによる楽しいコミュニティーと脱温暖化」	P10
2. 報告:小田原開催の意義	P15
3. セッション1 資料	P28
4. セッション2 資料	P46
5. 全体討論会 資料	P48
6. セッション3 資料	P49
7. 統括セッション資料	P62
8. ポスターセッション 予稿集	P63
9. 小田原宣言 (案)	P79
10. 「地域が元気になる脱温暖化」全国大会2016 in小田原 実行委員名簿	P80

別添資料

1. 地域エネルギーに関するアンケート～電力の新たな選択～報告書
2. 小田原市の再生可能エネルギー条例と計画
3. 再生可能エネルギー導入・省エネルギーに関する自治体意向調査報告書
4. セッション2資料集

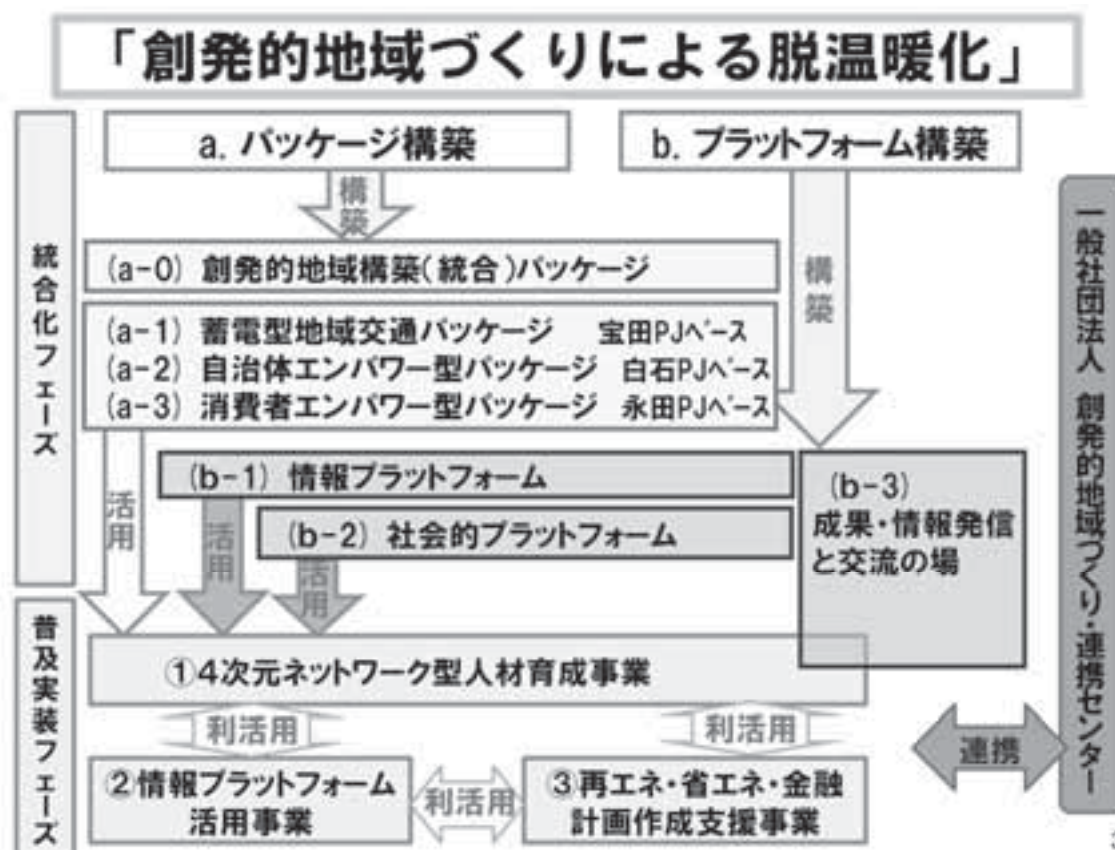
以上

1. 総括提言:「産官学民のつながりによる楽しいコミュニティと脱温暖化」



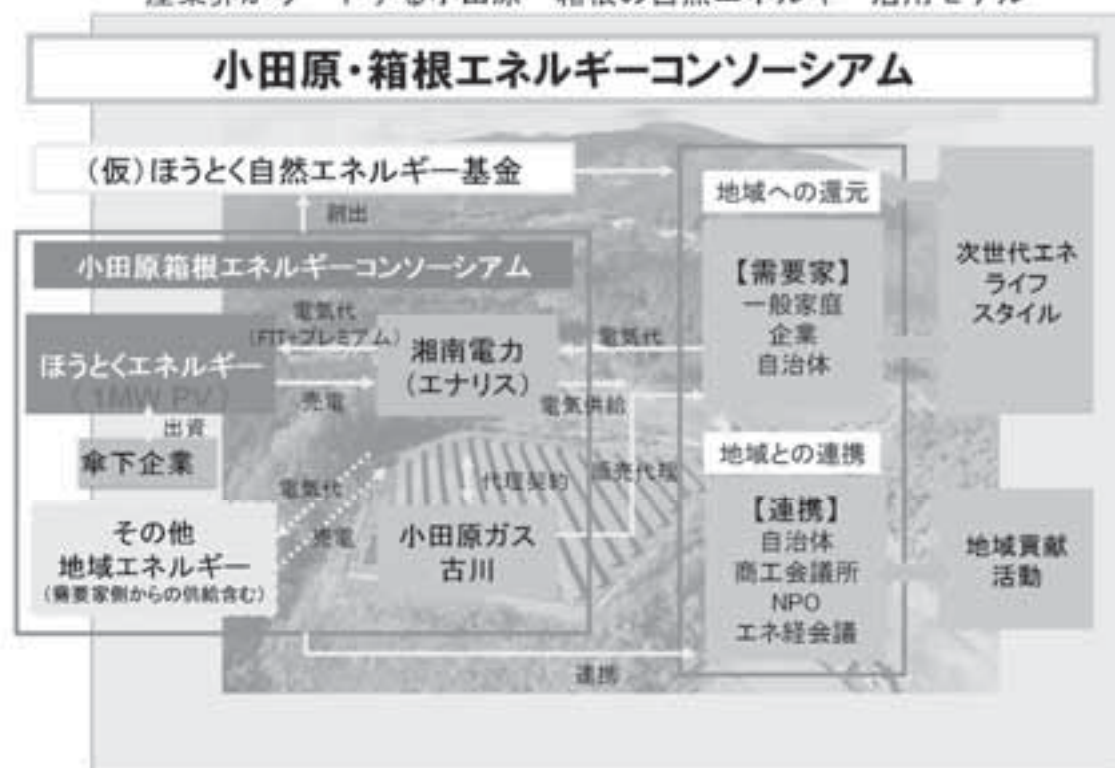
2008-13：地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会
研究開発領域の成果と関連プロジェクトマップ





3

産業界がリードする小田原・箱根の自然エネルギー活用モデル



楽しい低炭素未来社会

20世紀 大量生産、大量消費

→

文化的生活

地球温暖化

過度な分散化社会

コミュニティー崩壊

幸福感欠如



もっと楽しい社会、生活、人生

地域の一体化

本物の賛沢

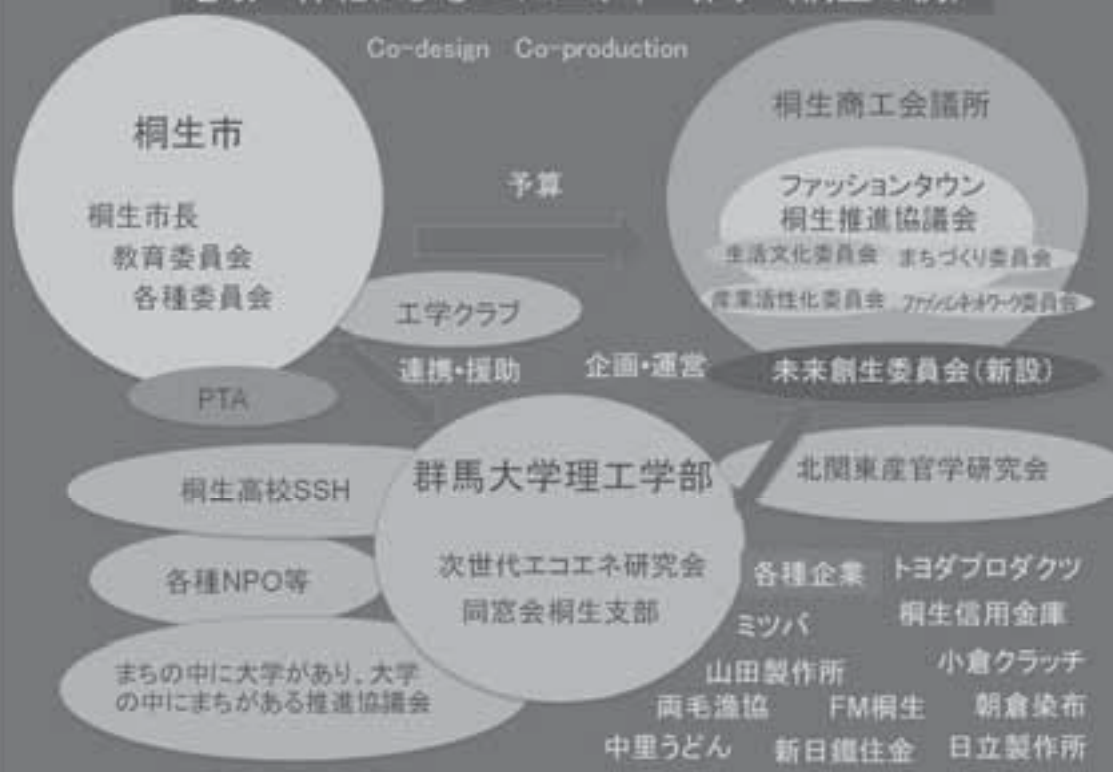
長寿命テクノロジー

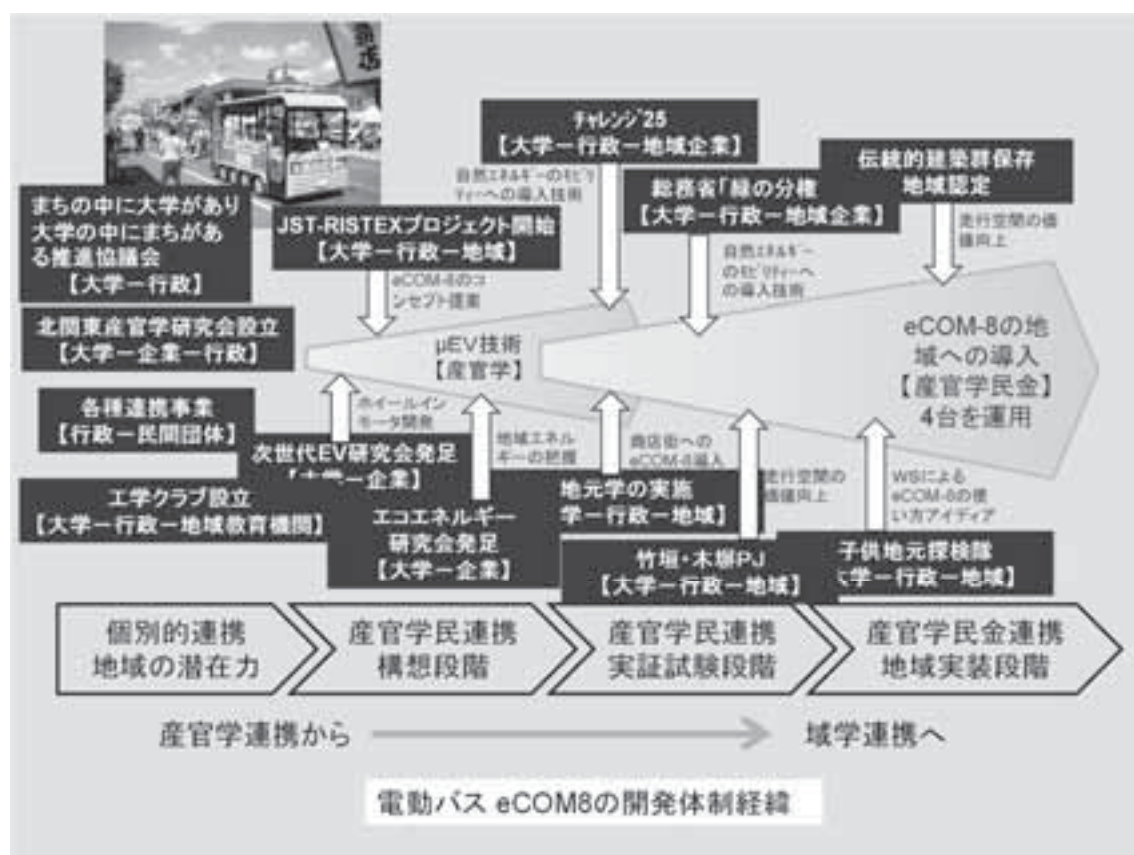
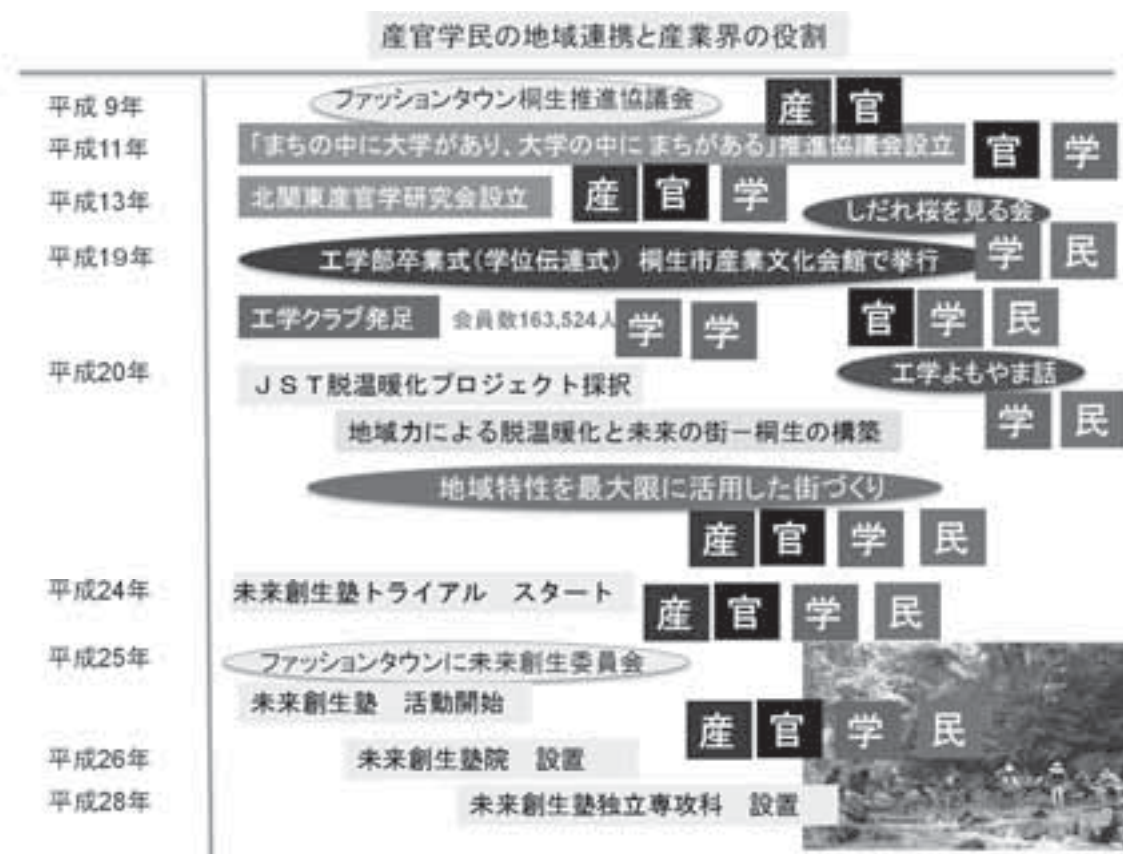
子供を健全に育てる

感性

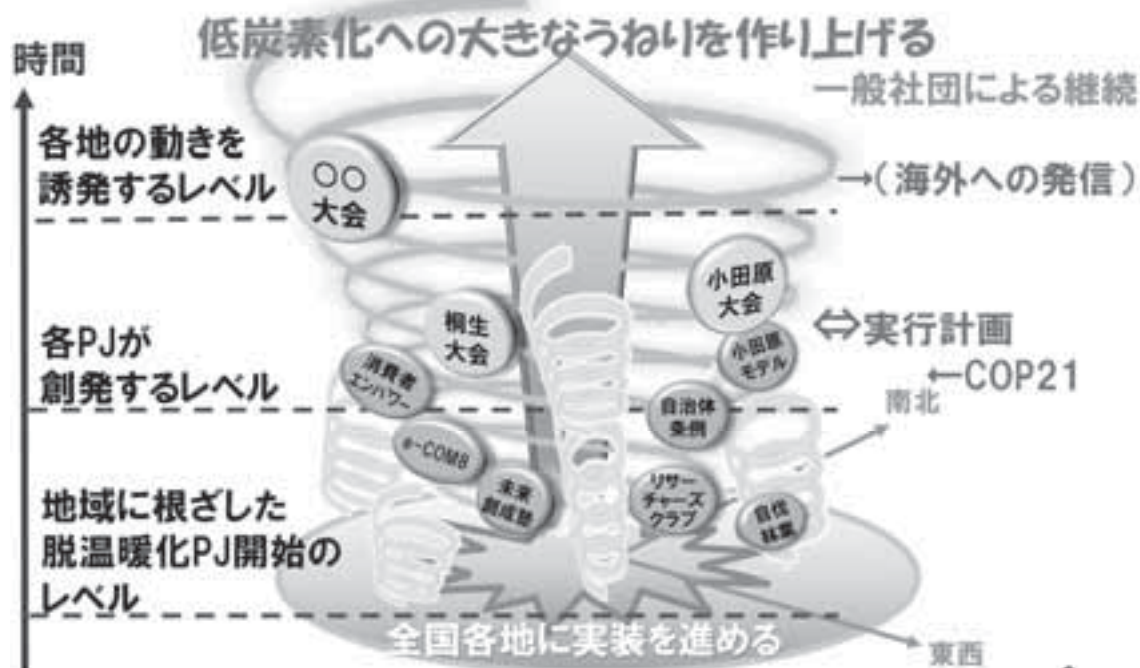
地域一体化によるコミュニティー作り（桐生の例）

Co-design Co-production





統合実装PJ＝全国の動きを誘発して実装



9

地域が元気になる脱温暖化

- 産官学民一体化による豊かなコミュニティー
→ 経済界のリーダーシップ・政策提言
(地域の連携強化)
- いいものを長～く大切に使う社会
→ 本物の贅沢によるCO₂の劇的削減
(先進国の上位概念)
- 地域の本物の資源・心地よい時間と空間
→ 本物が分かる感性豊かな人材育成

2. 報告:小田原開催の意義

『地域が元気になる脱温暖化』
全国大会2016』 小田原開催の意義
～FEC＋M自給圏の創発が
地域を元気にする～



一般社団法人 エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議
理事 兼 事務局長
一般社団法人 創発的地域づくり連携推進センター小田原支部 支部長
小山田 大和

自己紹介 小山田 大和

- ・ 1979年生まれ。36歳。
学生時代から地域の活動に関わる。
- ・ 酒匂川流域の交流ネットワーク会議委員
(2001～2009)
- ・ 小田原市行財政改革検討委員(09～10)
- ・ 社会教育委員(2010～2012)
- ・ 図書館協議会委員(2010～2012)
- ・ 2012年から一般社団法人 エネルギー
から経済を考える経営者ネットワーク会議
事務局
- ・ 15年より同会、事務局長。16年より理事。
- ・ 他に一般社団法人創発的地域づくり連
携推進センター小田原支部長
- ・ 合同会社 小田原かなごてファーム 業
務執行社員

地域の課題をビジネスに

人物風土記



小山田 大和さん

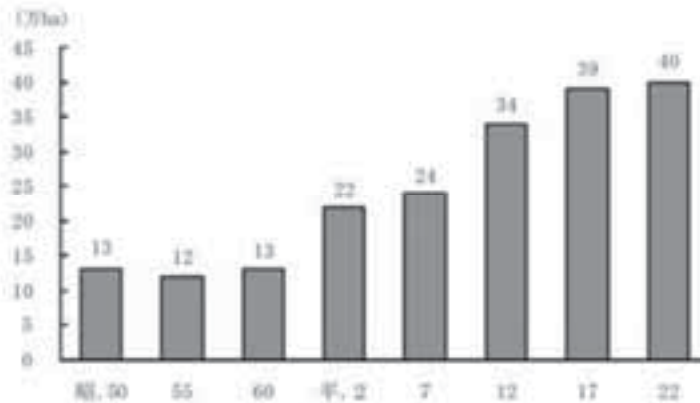
（静岡県小田原市）

小山田 大和さんは、1979年生まれ、36歳。学生時代から地域の活動に関わる。酒匂川流域の交流ネットワーク会議委員(2001～2009)、小田原市行財政改革検討委員(09～10)、社会教育委員(2010～2012)、図書館協議会委員(2010～2012)を務めた。2012年から一般社団法人 エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議事務局、15年より同会、事務局長、16年より理事。他に一般社団法人創発的地域づくり連携推進センター小田原支部長、合同会社 小田原かなごてファーム 業務執行社員。

日本の耕作放棄地の現状

富山県の面積に匹敵する

ー 耕作放棄地面積の推移（全国）



日本の耕作放棄地の現状



●「高齢化」「担い手不足」



農業は儲からない
きつい・きたない・危険



農家が継がせない



耕作放棄地化

小田原の「みかん文化」も危機的

昭和63年のオレンジ自由化で全国的にみかん減反政策が進められ、小田原市では260haのみかん畑が減反となった。

残されたミカン畑は、後継者不足や農業従事者の高齢化などの影響により年々減少している。

こうした背景により、再び耕作する考えのない耕作放棄地の増加は深刻な社会問題となっている。

小田原の耕作放棄地は現在、182haとなっており、年々増加の一途

耕作放棄地を「地域の資産に」

ありたい姿

耕作放棄地の再生、耕地としての維持・保全を目指し、農業従事者ではない地域生活者が農業従事者や都市部生活者の協力・支援を得ながら協働することで、地域の文化・資源を守り、持続可能な社会を実現する。

耕作放棄地をどう資産化するか？ ～「いいね」をどう創るか～

『おひるねみかんプロジェクト』の立ち上げ

子どもたちも参加した収穫祭



大収穫祭～サッカー選手も～



農の付加価値を高める動き

発売わずか1ヶ月で完売の
おひるねみかんジュース



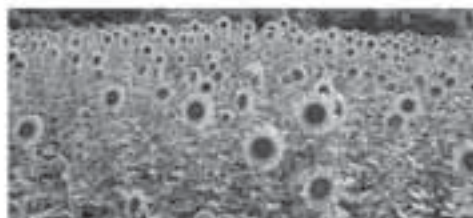
自然栽培で出来たえごま油



「農」そのものの付加価値を高める ～自然栽培の米作り～

自然栽培＝農薬、除草剤、肥料、何も使わない農法。奇跡のりんごで有名な
普通の「米」より値段が4倍。仕事量は半分。

- ・ ひまわりを自然栽培し、景観も美しく、また、油にして、経済的にもまわるように。



自然栽培の米作りに挑戦



今後の課題

「耕作放棄地の再生・保全が持続的に行われること」を達成するためには、これまでの活動を基礎とした継続的な活動を行える環境づくりや人材育成が必須である。

これらの活動を地道に行い、耕作放棄地を「食(F)とエネルギー(E)の自給の地」として変革させる。また、地域でお金(M)をまわすためにも障害者等の福祉(C)とも連携し、これらが地域で自給され循環される仕組みの構築が必要。その構築こそ、地域を元気にすると考える。



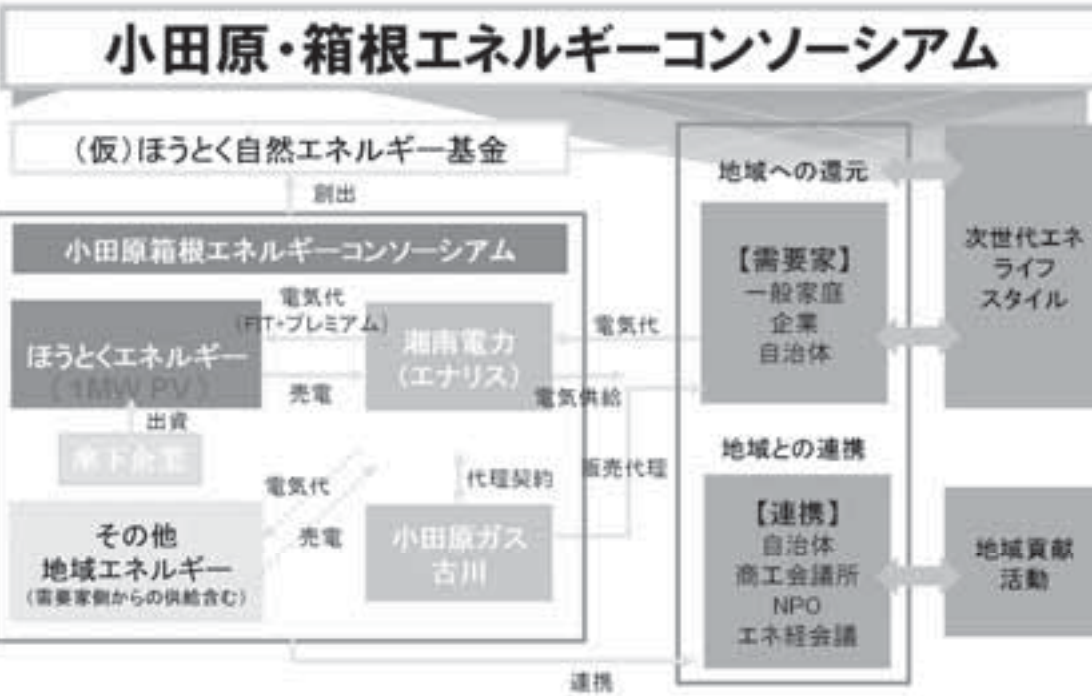
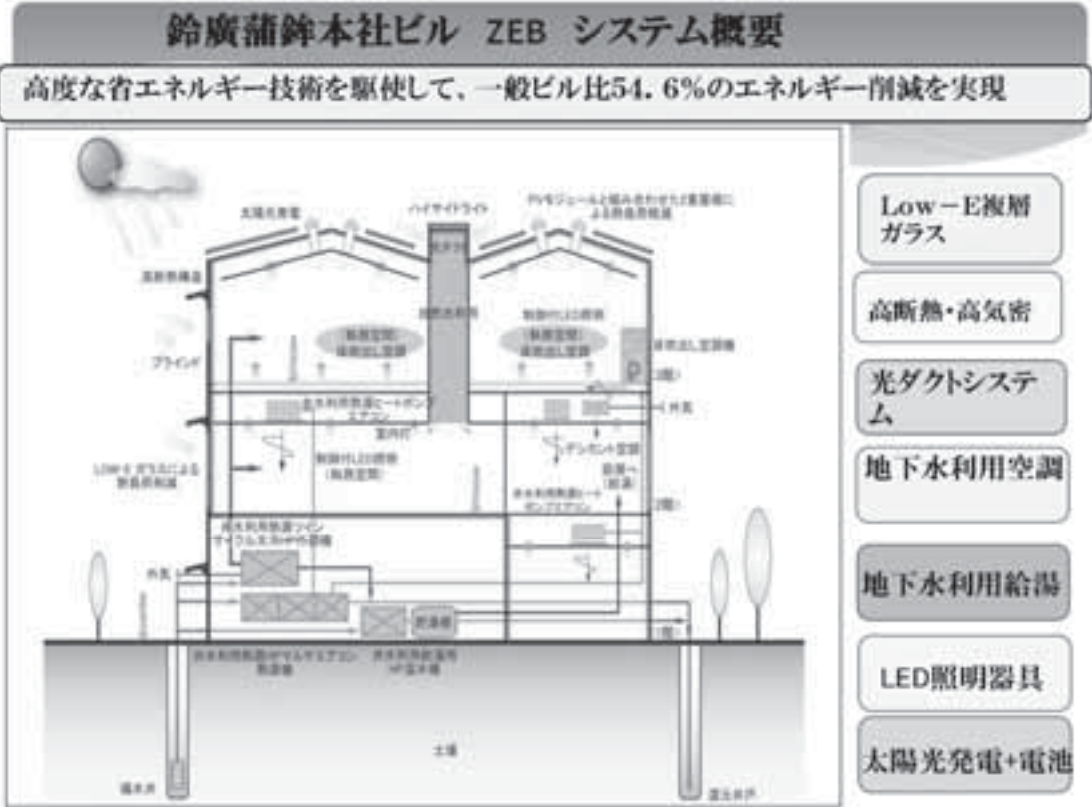
エネルギーの取り組み

東日本大震災以降「地域でエネルギーを創る」動きが始った。こうした地域エネルギー自治の確立を意図して中小企業の経済人からなる「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」が2012年3月に立ち上がる。代表は鈴廣かまぼこグループ代表取締役である鈴木梯介氏。

- 主として自然・再生可能エネルギーの地域での導入、中小企業の現場での賢いエネルギーの使い方、つまりは、省エネ、の実践を掲げて活動。現在、375社の会員から組織される。

考える経営者ネットワーク
実をつくる実践のネットワーク





課題：市民へのサービス提供
再エネ供給量の拡大

「普通の市民」にエネルギーで地域を
元気にすることを伝えたい
市民による手作りの創発イベント
～おひさまマルシェ立ち上げ～



市民もエネルギーの啓発に取り組む

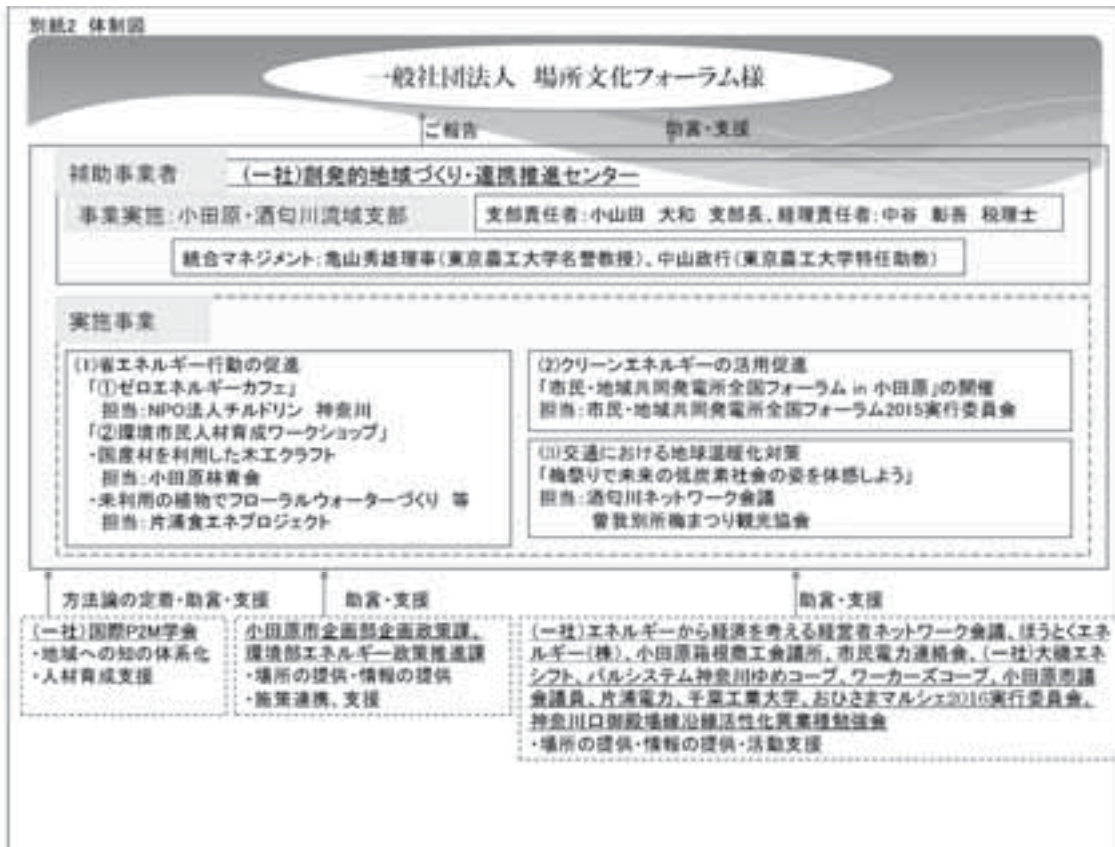
● 下曽我小学校でのサマー
スクールで出前授業



● 夏休みイベント

ソーラーランタン作り





市民もエネルギーの啓発に取り組む

片浦で開催したソーラーエネルギーによる星空上映会



市民もエネルギーの啓発に取り組む



地域で創られたエネルギーを賢く使うために低速EVバスを走行。苦節をへて小田原市の中心市街地でも走行




市民が「エネルギー」と「農業」を結びつける

農業とエネルギーで地域を元気にするための啓発イベント
地域活性化フォーラム～下曾我から発信する地域再生のヒント～「農業」と「エネルギー」から考える 開催。








市民がエネルギーと農業を結びつける

ファンの獲得(街に「いいね」をどう創るか?)のために・・・

- ①地元高校生と連携した商品開発(小田原総合ビジネス高校)
授業を通じて、耕作放棄地問題への理解と問題解決に向けた商品開発の授業を計4回実施。
- ②東京都中野区市民団体との連携
みかん畑の一部を中野区民用地として提供。
都市と地域の連携として、継続的にフィールドで参加できる環境を整えた。



24

市民発電の実践家が集った全国大会

「市民」と「経済界」の融合の第一歩

市民・地域共同発電所全国フォーラム2015IN小田原大会
開催





そして、ソーラーシェアリングへ



2015. 9.3開催の小泉純一郎講演会(小田原)で出会ったメンバーで意気投合し、合同会社小田原かなごてファームを立ち上げ、2016. 10月に農業とエネルギーを組み合わせた事業がスタートする。おひるねみかんジュース等の販売や各種啓発事業に今後、更に取り組んでいきたい。

COMING SOON.....

ソーラーシェアリング

小田原かなごてファーム

[illegible]

同シニアリジンは、国内でも実績が少なく、完成すると、同リザー

「この本は、
「おれが」を
「おれが」を
「おれが」を

「選手としての心と力」
「エネルギー」に
「むね」を込めてサ
「ポートランドセメント」の
「品質」を高める。その
「結果」は、日本
「経済」の発展に
「貢献」する。

—ムは、新作は
付するなどし、
他となり、第
二回は、新作は
付するなどし、
他となり、第

かねてから「フーバー・バールを
今年には自国に
移す、工場建設、自
国に事業を移す、
このうち同シエアリ
ン、タネ産業」の計画は

[illegible]

ア、ムの高、事業内容、設備的な点に留意した。

[illegible][illegible]

日ソは同盟関係の
終つてゐる。

同僚記者曰、朝
金銀相場暴落から直
接、穀内の騰貴に
等な原因として、穀内
牛飼工共も中々上
事案を指摘してゐ
る。そのS.D.O.法人や
企業などに對し、
材料の一部を供給
する。

輸出を受けた事
は、恐らく助成

[illegible]

「明治新聞」は、
有明新聞、農作
新聞、東京新聞
の四紙を同時に
購読した。アリン
君は大阪へ向か
うに考え、幾
分の餘利が餘存
するに能くする
と希望されるが、
小規模な同種
の事件を起し、
調査や分析、及
び、今世に

[illegible]

た。このように、
「インナー」の
された事
展開で、
本格的に
四丁場、
長谷川、モ
町内の遊
遊樂大園
開業、地
自町を力
す。いず
リヤと

100

100

100

[illegible]

1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 26

100

3. セッション1 資料

セッション1「小田原・箱根エネルギーコンソーシアムは地域を元気にする！」

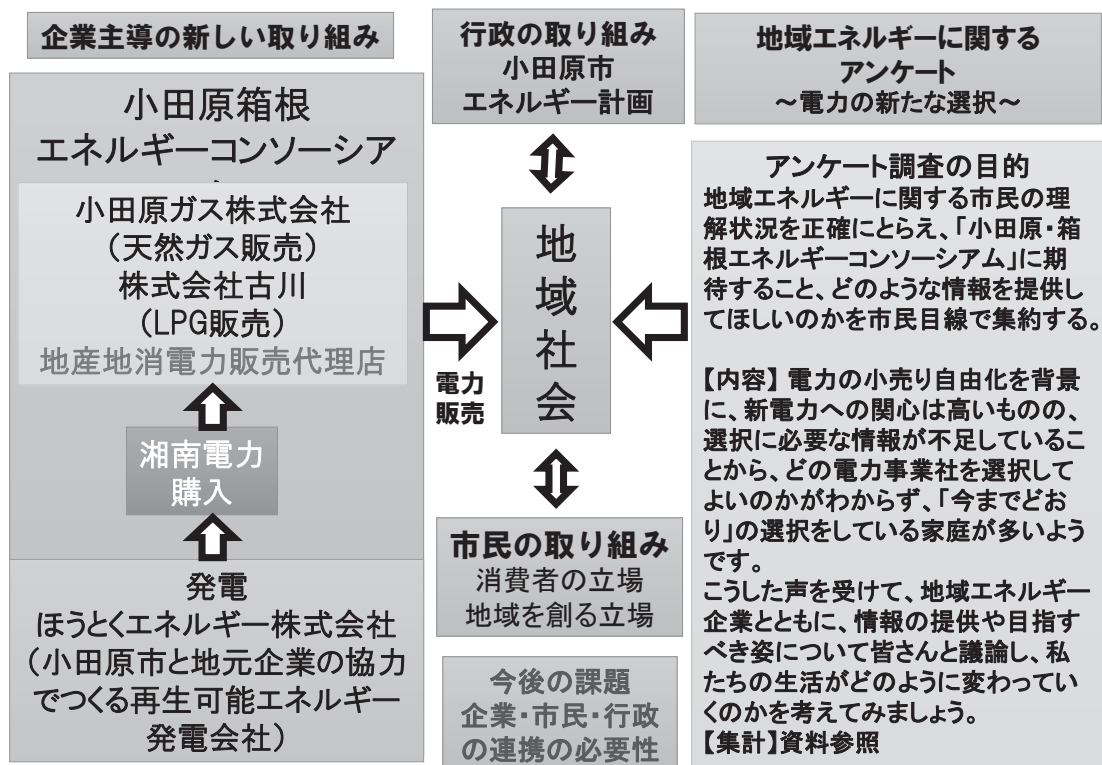
コーディネーター: 亀山 秀雄 氏(東京農工大学)
パネリスト: 古川 剛士 氏(株式会社古川)
渡部 健 氏(湘南電力株式会社)
志澤 昌彦 氏(ほうとくエネルギー株式会社)
原 正樹 氏(小田原ガス株式会社)
堤 千恵子 氏(NPO 法人チルドリン)
谷口 信雄 氏(東京大学、生活協同組合パルシステム東京理事)
コメント: 中山 政行 氏(東京農工大学)
高橋 真樹 氏(ノンフィクションライター)

セッション1「小田原・箱根エネルギーコンソーシアムは地域を元気にする！」

セッションの議論の流れ

1. 議論の位置づけの説明とパネリストの紹介
2. 小田原・箱根エネルギーコンソーシアムの説明
(設立の経緯、ビジョン、組織化、事業内容等)
3. 小田原市のエネルギー計画の紹介
(短期目標、長期ビジョン等)
4. アンケートから見た企業主導型の事業の認知度と要望
(中山氏から説明)
5. 市民の目線で見た地域内再生可能エネルギー利用の理解
(堤氏からの世代の異なる市民の意識についての情報提供)
6. エネルギーの地産地消で経済を回す取り組みの紹介
(谷口氏からパルシステムの事業戦略の紹介)
7. プロダクトアウトからマーケットインへビジネスモデルが移行している中で、
地域におけるビジネスの在り方を、新しい取り組みである企業主導型の小田原・
箱根エネルギーコンソーシアムを事例にして議論します。これを発展させて地域
を元気にする(お金が回り、雇用が生まれ、地域の年収が増える、様々な事業で
地域内で市民・企業・行政の連携が密になる)ためには、どのような仕組みや
関係性を作っていけば良いかを議論します。会場からの発言も求めます。²

セッション1「小田原・箱根エネルギーコンソーシアムは地域を元気にする！」



セッション1 資料1 「小田原箱根エネルギーコンソーシアム」

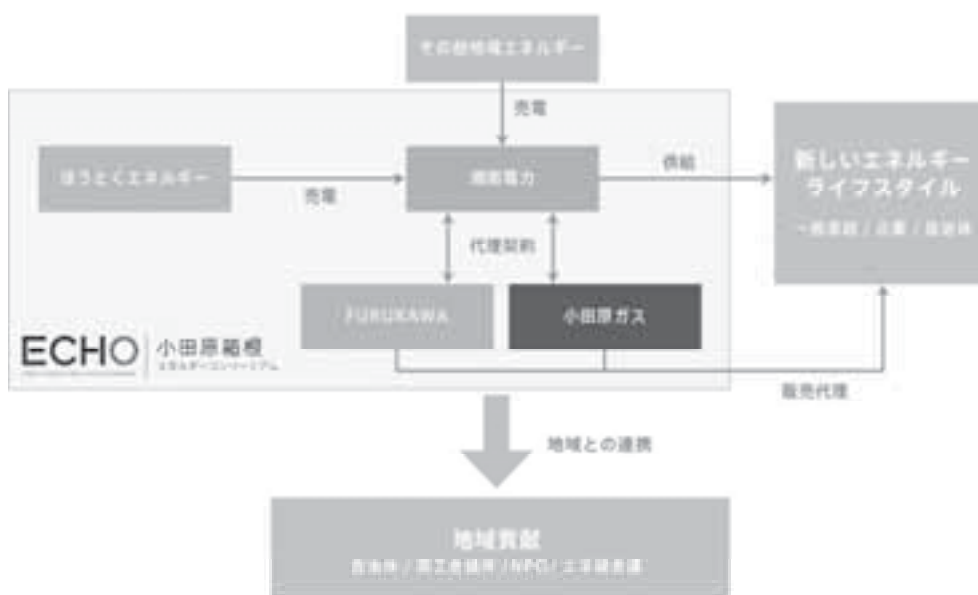
エネルギーの地産地消から始まる小田原市・箱根町の創生

ECHO設立の目的

『エネルギーを創り、賢く使い、みんなでシェアする』
新しいエネルギーライフスタイルを実現する

エネルギーの地産地消により生じる収益を地域に還元し
更なる地域の活性化を図る

ECHO事業スキーム



地産地消型自然エネルギー供給システムの構築

・地産地消型小売電気事業の推進

- ① BtoB 高圧需要家向け 小売電気事業
2016年4月から開始
- ② BtoB 低圧需要家向け 小売電気事業
2016年10月から開始
- ③ BtoC 一般家庭向け 小売電気事業
2016年10月から開始

神奈川県内のすべての電力需要家向けに電力供給をスタート

基金創出・活用による 次世代エネルギーライフスタイルの実現

創エネの推進	蓄エネの推進
➢ 太陽光発電（FIT対応型、FIT非対応型（+蓄電池を絡めた）） ➢ 太陽“光”エネルギーの活用（太陽光利用照明） ➢ コジエネ（エネファーム等） ➢ 小水力 ➢ 熱エネルギー利用（地下熱、地下水、地熱） ➢ バイオマス（電・熱）	➢ 蓄電池・蓄熱の導入と面的活用によるエネルギーマネジメント ➢ 蓄電池と太陽光発電の創蓄連携による防災拠点強化 ➢ 蓄電池利用による節電・ピークカットおよびネガワット取引への参加 ➢ 電気自動車の導入促進
省エネの推進	支える仕組みの推進
➢ ZEB・ZEH等の推進 ➢ 公共・民間施設の新築・建替・リフォーム時の効果的なエネルギーシステムの提案 ➢ LED・高効率空調・高効率冷凍機などの最新機器導入	➢ 金融機関と連携したファイナンスの仕組み創出 ➢ 市民参加型のファンド（クラウドファンディングの仕組み） ➢ 環境省グリーンファイナンスの活用 ➢ 国・地方自治体の補助金の活用

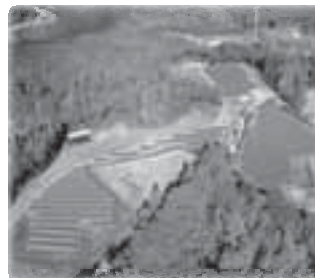
なぜ今エネルギーの地産地消なのか？

1 自然エネルギーの普及促進による低炭素社会の実現

太陽光発電や風力発電など、自然の力を利用して発電するシステムはCO2を出さず、地球環境負荷低減につながります。こうした発電方式を神奈川県内で更に普及させていく（例えば、神奈川県・小田原産の電気を作る）ことが重要です。



地産の仕組みはできたが、**地消の仕組み**をどう作っていくのが次の課題に！



ほうとくエネルギー
太陽光発電所
（小田原市）

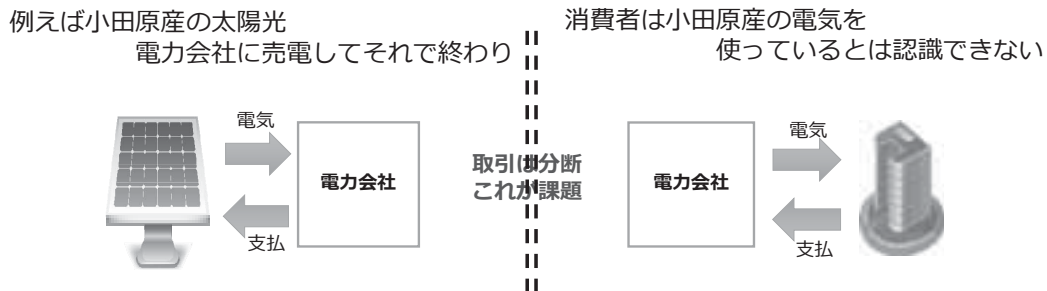
古川
きらめきの丘おい
太陽光発電所
（大井町）



なぜ今エネルギーの地産地消なのか？

ただし、地産だけでは神奈川県内での環境負荷低減や経済循環に直接的に寄与しません

＜現状の課題＞
発電と消費が切り離されて行われている



地産地消をするには、この分断を取り除き、産と消をつなげていくこと（仕組み）が必要

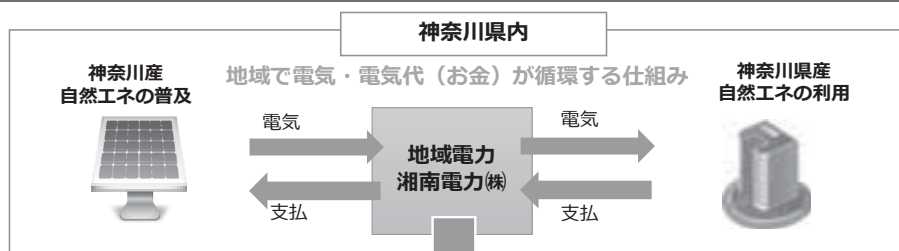
なぜ今エネルギーの地産地消なのか？

2 電力の地産地消を実現する電力流通の仕組み変革

電気の取引の「分断」を取り除くため、神奈川県産の電気を神奈川県（小田原・箱根）の企業や住民に直接届ける新しい電力流通の仕組みが必要です。それを実現するのが地域電力である湘南電力の役割です。

※100%の地産地消は難しいため不足する電力は他地域や電力会社から一部調達します

神奈川県で電気の地産地消、それによって電気代（お金）が域内経済循環



ECHOは電気代の一部を小田原・箱根地域の課題解決や自然エネルギーの更なる普及促進のため再投資
地域活性化につなげていく好循環を生み出す仕組みを提供します

地域貢献活動

湘南電力へご加入に際に、以下のプランを選択していただきます。
今後拡大していく予定です。
お客様からいただいた電気代の一部を地域貢献活動に役立ててまいります。

地域活性化 応援プラン	ライフスタイル 応援プラン	湘南ベルマーレ 応援プラン
		
主に自治体と連携し、地場産業・商店街の活性化や地域資源の有効活用、祭りや伝統行事の開催など、地域の振興に関する活動を応援するプランです。	神奈川県内の環境に関する活動を応援するプランです。環境保全活動や美化活動、防犯・防災活動を展開する団体を支援します。	湘南ベルマーレと湘南ベルマーレスポーツクラブの活動支援を通じて、地域のスポーツ・文化振興、子どもたちの教育支援に貢献するプランです。

地域貢献活動 ECHOの取り組み

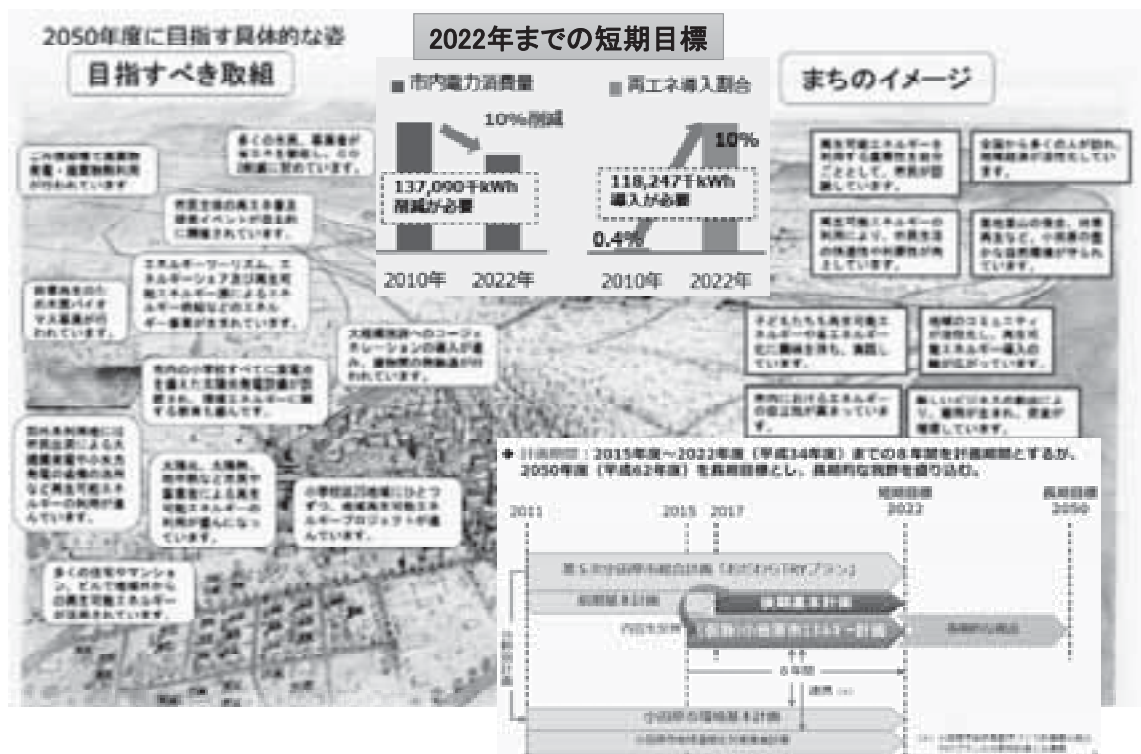
ECHOでは、小田原・箱根地区、周辺市町村において、具体的に以下の取り組みを実施してまいります。

- ① 再生可能エネルギーへの再投資により、さらなる再生可能エネルギー発電所の拡大を目指します
- ② 蓄電池と太陽光発電の創蓄連携システムの導入により、再エネの普及促進と、エネルギーによる地域防災の強化を目指します
蓄電池活用により災害時にも電力を利用できる防災拠点を整備します

質問する項目

- ・ 設立までのいきさつ
- ・ 組織の関係性
- ・ 人的なつながり
- ・ 販売計画（販売量、価格）
- ・ 将来の展開のビジョン
- ・ 産民行金との連携についての考え
- ・ 他の地域との連携について
- ・ 市場調査の実績について

セッション1 資料3-1 「小田原市エネルギー計画」



セッション1 資料3-2 「小田原市エネルギー計画」

「小田原市エネルギー計画検討会 構成員名簿」

No.	区分	役職	氏名	所属
1	学識経験者	座長	西山 敏樹	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授
2		構成員	飯田 哲也	認定NPO法人 環境エネルギー政策研究所 (IEEP) 所長
3		構成員	大島 啓介	株式会社ダイナシティ 代表取締役
4	小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会	構成員	鈴木 伸幸	FM小田原株式会社 放送局長
5	小田原商工会議所	構成員	原 正樹	エネルギー・環境特別委員会 委員長（小田原瓦斯株式会社 取締役社長）
6		構成員	内田 治光	エネルギー・環境特別委員会 委員（相洋産業株式会社 代表取締役）
7	市内事業者	構成員	石田 昌宏	文化堂印刷株式会社 執行役員 本社工場生産管理部部长
8	エネルギー供給事業者	構成員	水野 雅人	東京電力株式会社 小田原支社 副支社長
9		構成員	古川 剛士	株式会社古川 代表取締役社長
10		構成員	鈴木 大介	ほうとくエネルギー株式会社 取締役
11	教育	構成員	立山 和也	小田原市立富水小学校PTA 副会長
12		構成員	鈴木 ころこ	片清電力
13	国	顧問	古来 隆雄	環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 企画官
14	神奈川県	顧問	松浦 治美	神奈川県 産業労働局 エネルギー部長

セッション1 資料4-1 「年代がことなる市民層へのヒヤリング調査」

地域エネルギーに関するアンケート

～電力の新たな選択～

実施後のヒアリング調査について

NPO法人チルドリン

堤 千恵子

アンケートと共にヒアリング調査を実施した。
世代によって考え方に特徴があり、それぞれの関心ごとが明らかになったので報告する。

【中学生】◆地域エネルギーに関する感想

- ・小田原で電気に関する取り組みがあることを知らなかった。
- ・3.11のことがあってから、原発の電気ではなく、持続可能なエネルギーへ移っていく必要があること、エコのこともきちんと考えなくてはならないことを認識していた。

【高校生】◆地域エネルギーに関する感想

- ・小田原で再生可能エネルギーの取り組みがあるとは思わなかった。地元産の電気があることを初めて知った。
- ・電気の質問かと思ったら農業に繋がっていてビックリした。電気のことでそんなことしてるんだ。
- ・電車利用はCO2の削減に役に立っていることを知った。
- ・今、なんでもコロコロ変わるし、詐欺もあるし、どこも信頼できない。
- ・エネルギーコンソーシアムの言葉、初めて聞いた。

18

【新社会人】

◆需要家としての視点(電力の新たな選択に対する考え方)

- ・消費者の立場からすれば、電気は例えば照明がつかつかないかだけの問題であって、消費者から見た電気にはクオリティの違いがある訳ではないから、他社の電気との差別化が難しく、消費者は実感ができず、説得が難しいと思う。
- ・きっと、日本人は集団意識だから、みんながやるならやるけど、隣りの人が無駄使いしてるのに自分だけしてもと思う。
- ・この電力会社と契約したら、非常時でも絶対に停電しないなどの特別感を前面にだせば、契約を変更する動機になるかも。
- ・新規の方が契約変更よりハードルが低いと思う。
- ・醤油1本買うのにどこが安いかを見比べて買ってる人達が大半の中では、どうあるべきかでは行動を変えないと思う。

【新社会人】◆需要家としての視点(価格面)

- ・安いのか？値段が大事。
 - ・世の中にいいと思うけど自分がやるとしたら金額が一番の条件。
 - ・夢語られても、実際の生活が大事だから、少しでも光熱費が安くなるものなら変えると思う。
 - ・お金が関わってきたら、それは商品だから、消費者の見方になるのは当然。
- ◆地域エネルギーに関する感想
- ・どこからそういう情報を得ればいいのか？
 - ・電気作ってるんだすごい。
 - ・会社ができてることを知らなかった。
 - ・そんなにすすんでいるとは思わなかった。
 - ・環境のことは一人でやっても無駄な気がしてしまう。
 - ・マンション全体とか新しい分譲地など、これから始まるところに最初から組み入れられている方が良いと思う

【30代ママ】◆需要家としての視点

- ・良いことであっても、切り替えるなら値段が大事、光熱費はかからなければ、かからないほどいい。
- ・家に太陽光パネルを乗せて、売電している。
非常時には家の発電で多少なら、しのげる。

【50代主婦】◆需要家としての視点

- ・新電力のこと、始まる前はマスコミも毎日取り上げてたけど、今は全然なので、もう下火になったのかと思っていた。
- ・家に太陽光パネルを乗せても今更、もとがとれない。
- ・家との古さの違いで家と太陽光パネルの耐久性が合わない。
- ・新電力に切り替えるなら、決め手は価格。
- ・売電とか言うけど、電気料金の明細書見たことある？
売電料の負担で、私達がしてるのよ。
下の方に小さく書いてあるから。

セッション1 資料4-2 「市民活動の組織化の事例」



おひさまマルシェ2016(小田原)実行委員会
〒250-0045神奈川県小田原市城山1-4-1-1001号室
Mail: ohisamarche@gmail.com
Tel: 070-5551-1167

◆設立趣旨

急速に変化を遂げる時代において、持続可能な社会づくりに必要とされることを見出すため、市民中心の民間任意団体として発足させ、新たな地域社会の在り方・新しい価値を創造して、それらを広く地域社会に浸透させ、継続的な地域発展に寄与すること

◆団体理念

東日本大地震の惨劇を風化させず未来のために今やらなければならないことに取り組む

◆活動目的

- ・急速に変化する時代における持続可能な暮らし方の形成
- ・地域内における循環型社会システムの形成人と人が共存する地域社会の構築
- ・人と居住環境・自然環境が共存する地域社会の構築
- ・人と企業の経済活動が共存する地域社会の構築
- ・人と文化的歴史的財産が共存する地域社会の構築
- ・民学産官それぞれが連携した新しい価値の形成

◆主たる事業活動内容

- ・イベント(おひさまマルシェ)の開催と実行委員会の運営等
- ・地域内に存する各団体との情報交換および交流活動等
- ・他地域に存する類似活動団体との情報交換および交流活動等
- ・各研究機関・行政機関との意見交換等
- ・新しい価値を創造するための試みの実施等
- ・各種啓発活動

セッション1 資料5-1 「地域エネルギーに関するアンケート集計」

地域エネルギーに関するアンケート
～電力の新たな選択～

東京農工大学 中山政行

1.アンケート調査の方法

アンケート実施期間：8月10日8：00～10月7日 19:30

アンケート方法：web（googleフォーム）回答形式

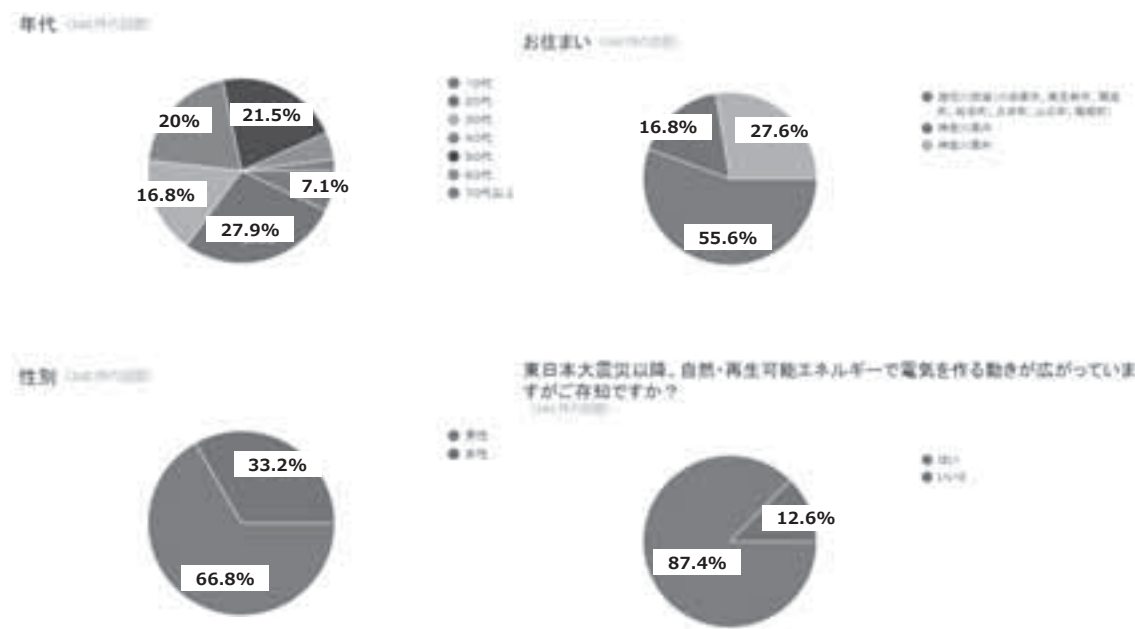
アンケート総数：340件（有効回答数 340件）

2.アンケート調査の目的

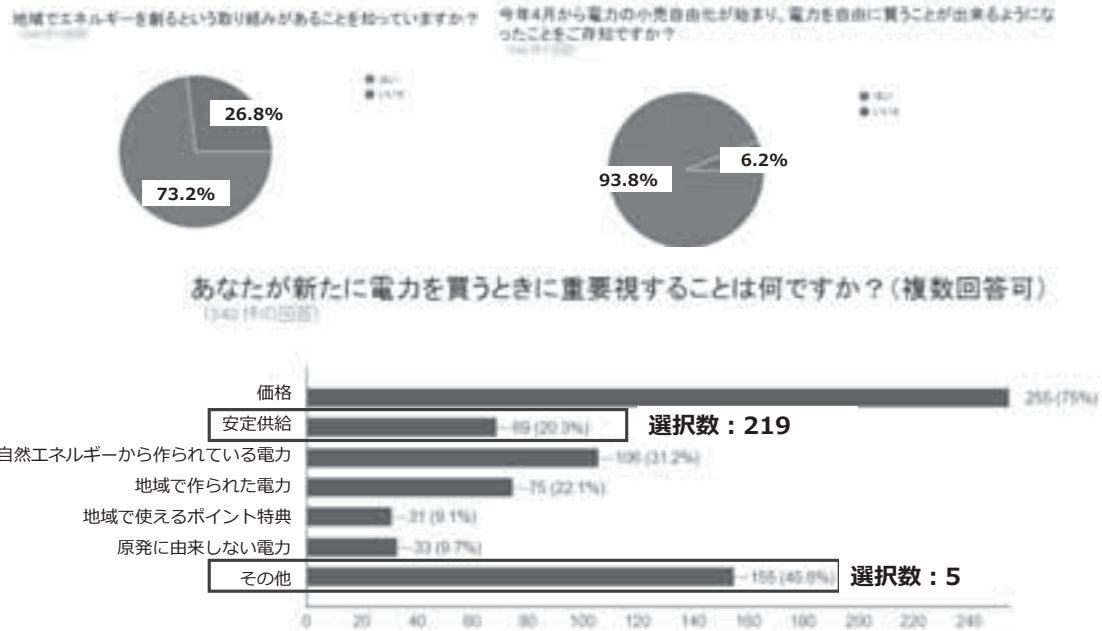
地域エネルギーに関する市民の理解状況を正確に捉え、
「小田原・箱根エネルギーコンソーシアム」に期待すること、
どのような情報を提供してほしいのかを市民目線で集約することを
目的としています。

23

セッション1 資料5-1 「地域エネルギーに関するアンケート集計」



セッション1 資料5-2 「地域エネルギーに関するアンケート集計」



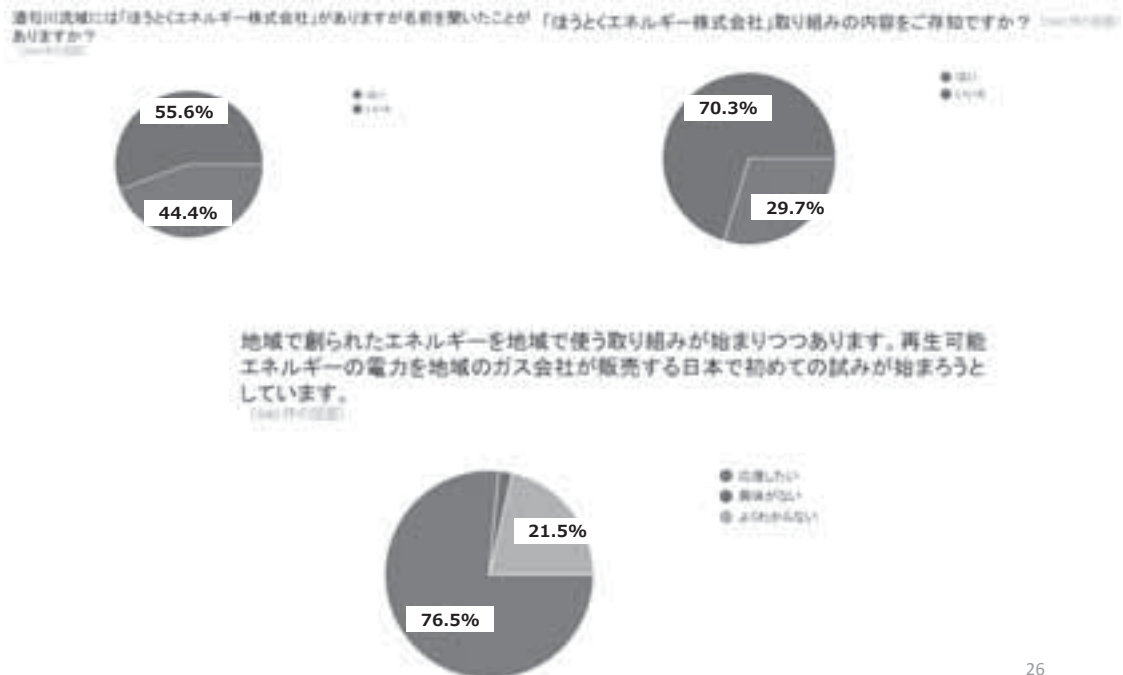
※その他が155件となっているが、実際には安定供給が219件、その他が5件。

当初、安定供給を安定供給（安心・安全）としていたが、

安心・安全の解釈が難しいとのことから、「安定供給」に選択項目を統一したため。（9月6日実施）

25

セッション1 資料5-3 「地域エネルギーに関するアンケート集計」

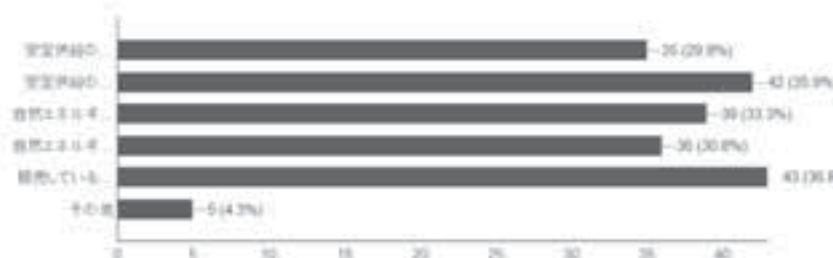


26

セッション1 資料5-4 「地域エネルギーに関するアンケート集計」

現時点ではすべての電力需要を自然エネルギーからの発電量で賄うことはできませんが自然エネルギーからの電力使用を増やしていく必要があります。その場合に、使用する電力の安定供給のために原子力、化石燃料、自然エネルギーから電力が混在します。それに関してどのように考えますか。（複数回答可）

（117件の回答）



当該質問は、9月6日に追加

【上記質問の補足】

- ・安定供給の問題と経済性の問題もあるがどの地域からの自然エネルギー電力でも構わないので100%自然エネルギーからの電力を使用したい
- ・安定供給の問題と経済性の問題もあるが自分の地域からの自然エネルギー電力であれば自家消費の電力はすべて自然エネルギーで使用するようにしたい
- ・自然エネルギーの導入は電力供給会社の問題なので、自然エネルギーをより多く含む電力を供給する会社を選択していきたい
- ・自然エネルギーの導入は電力供給会社の問題なので、価格面と安定供給を重視して電力会社を選んでいきたい
- ・販売している電力がどのエネルギー源によるものなのか内訳を明示してほしい
- ・その他（よくわかりません×2、不明）

27

セッション1 資料5-5 「回答結果からの分析」

・地域でエネルギーを創るという取り組み（ほうとくエネルギーに限らず）が行われていることについては、73.2%の認知度があるものの、自身の居住地にどのようなエネルギー会社が存在しているのか、どのような活動をしているかについての認知度が低い結果となった。

・地域エネルギー会社の取り組み内容について、酒匂川流域在住者に限定してみると189名中、126名がその内容を知らないと回答。

（当該アンケートは地域エネルギーに関わり合いがある関係者を通じて展開されているため、選択バイアスが生じているが、それでも認知度は低いため、一般的にはさらに認知度は低いものと考えられる。）

・電力の小売り自由化を背景に（93%に認識されている）、新電力への関心は高いものの、情報を得る機会が少なく、選択に必要な情報を収集できないため、どの電力事業者を選択したらよいのかわからない状況となっている。

このため、「今までどおり」の選択となっているとの意見があった。

・電力の小売り自由化を迎えた今こそ、選択に必要な情報の提供が望まれている。

28

セッション1 資料5-6 「講ずべき対策案(アンケートの意見から)」

- ・小売り自由化が始まって多くの会社が参入したがどれを選んでいいのかわからない。それゆえ結局「今までどおり」を選択してしまう家庭が多いと思われる。
- ・電力会社の変更は、大変勇気のいる決断だと思うので、さらなる理解を得ないといけな
いと思う。(20代男性、酒匂川流域在住)
- ・まだまだ地域エネルギーに関して認知されていないと思います。安心安全な地域エネ
ルギーができれば、できるだけ早くその電力を選択したいと思っていますが、まだまだ
情報が少なく、無関心の方へ情報が目に止まるくらいの発信とSNSだけではなく駅前な
どで地域エネルギーの情報チラシやタウン紙などでもっともっと市民に選択できる提案
をしてほしいです。。(40代男性、酒匂川流域在住)
- ・日本では自然エネルギーの受給が海外に比べて遅れている中、都心にも行きやすく
自然の多い西湘からエネルギーの最先端へ進むべきだと思います。
(30代女性、酒匂川流域在住)
- ・インスタやSNSで発信できるようなキャンペーンなどをやって、若者にも関わられるよう
にしてほしいです。コンソーシアムなど、一般の人に開いているつもりでも、おじさんおば
さんや一部の熱心な人が集まっているイメージになってしまいそうです。
(20代女性、酒匂川流域在住)

29

個別意見1

地域エネルギーや電力の新たな選択、アンケートなど、ご提案やご意見がございま
したらお聞かせください。(自由回答欄です)

(30件の回答)

地域での新しいエネルギー利用についての説明会を聞いてほしい。

コンソーシアムの当初サービスエリアと将来設計について説明がほしい。

未来に渡り安全で、安心な事が第一です。価格は二の次ではないでしょうか。

電力自由化により、使う側が自分でどの会社を選択するのか決めることが出来るようになりましたが、実際には東京電力
以外と契約を結んでいる家庭が少ないので、もっと自由に選ぶことができるということをアピールできればと思います。

地域エネルギー・電力に対する情報は、残念ながら一般ユーザーにまだまだ届いていないのが現状だと思います。
地域での様々な取り組みを通じて、地域で創られるエネルギーを知り、応用していける環境や仕組みづくりを拡大してい
きましょう。

小売り自由化が始まって多くの会社が参入したがどれを選んでいいのかわからない。
それゆえ結局「今までどおり」を選択してしまう家庭が多いと思う。
電力会社の変更は、大変勇気のいる決断だと思うので、さらなる理解を得ないといけな
いと思う。

電力市場が自由化しても、結局信頼性の観点から参入業者が限定され、競争原理が働かないことが推察されます。それだ
けに、市民の不安を払拭する仕組みができれば非常に価値があると感じています。

ユーザーとなりうる人に、安全性を周知する広報活動を十分に行い、かつ安定供給とコストの安定性を確保することでは
まよシエは延びるはず

30

個別意見2

まだまだ地域エネルギーに関して認知されていないと思います。安心安全な地域エネルギーができれば、できるだけ早くその電力を選択したいと思っていますが、
まだまだ情報が少なく、無関心の方へ情報が目に止まるくらいの発信とSNSだけではなく駅前などで地域エネルギーの情報チラシやタワシ紙などでもっともっと市民に選択できる提案をしてほしいです。

日本では自然エネルギーの受給が海外に比べて遅れている中、都心にも行きやすく自然の多い西湘からエネルギーの最先端へ進むべきだと思います。

インスタやSNSで発信できるようなキャンペーンなどをやって、若者にも関わられるようにしてほしいです。コンソーシアムなど、一般の人に関わっているつもりでも、おじさんおばさんや一部の熱心な人が集まっているイメージになってしまっているように思います。

周知が足りないからもっと宣伝したり、地域のフリーペーパーなどに取り上げてもらったりしたら？

続けていくためには経済性も大事

地産地消では、ないですがまずは地域の物を優先して使っていきたいと思います。
応援しています。

なんとしても原発はとめたいと思います。地域に合った、小さい単位でのエネルギー循環を実践すべきです。

特になし

地域でどのくらい認知されているかわからないが、さらなるPRをしたほうがよい

この趣旨をできるだけ多くの人に理解してもらう努力をして(子どものときから教えるなど)エネルギーの大切さをわかってくれる人を増やす。

太陽光発電のための設備の価格を安くしたいと思う

31

頑張ってください。

素晴らしい取り組みですね、応援しております！

小型水力発電に興味があります。

小田原・湘南の地域エネルギーの取り組みに大変関心を持っています。
東京都市部との連携が出来るといいのですが。

ちょっと難しいねえ

安定するまで成り行きを少しの間見守りたい

ソーラーパネルの設置により、設置された場所に全く太陽エネルギーが入らないことで生じる、地面地にも与えるリスクについて調査研究を進めて欲しい。
また、ソーラーパネルなどの自然エネルギー源の耐用年数、環境に配慮した廃棄物処理についても同時に進行して健全な利用推進を実現して欲しい。

電力などについては、学生である自分でなく親が知らないところで決めているので、自分でとれるアクションはない
仮に社会人になって自分で選ぶようになったとしても、お金のない若いうちはコストのみを気にして、再生可能エネルギー云々の部分を気にする手間は払わないと思う

色々な発電機施設、風力、火力、水力など、初期投資はかかると思うけど、施設が増えて自然のエネルギーだけで生活がまかなえる日が来るんじゃないかなと思います。

情報が少なく分かり難くので、どうかして欲しい

消費者は価格に最も敏感に反応する。再生可能エネルギーであろうと、原子力であろうと安く、安定した電力が最終的には求められる。

地域の電力需要を安定的に地域の自然エネルギーだけで供給できれば良いが、発電効率や送電ロスなど、まだまだ技術進化が必要であると考えます。また、そのようは発電システムが家庭用小型化できれば、災害時も安心ではないかと思えます。

32

セッション1 資料6 「パルシステムの事例」

パルシステムの新電力事業

パルシステム東京理事・東京大学特任研究員・早稲田大学客員上級研究員 谷口信雄

パルシステム東京について



【パルシステム東京概要】

理念：『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります

事業エリア東京都、組合員数 44 万人、総事業高：706 億円、主な事業：宅配事業、福祉事業

【生協で初めて新電力を創設】

脱原発と温暖化防止を目指す生協パルシステム東京は、株式会社うなかみの大地とともにグリーン新電力を創設し、主要事業所の電気を、日本で初めて「地域に根ざした再生可能エネルギー電力」にシフトします

(2012 年 11 月 22 日パルシステム東京プレス発表。2013 年 4 月頃より電力取引開始)

【なぜ生協が新電力事業に取り組むのか】

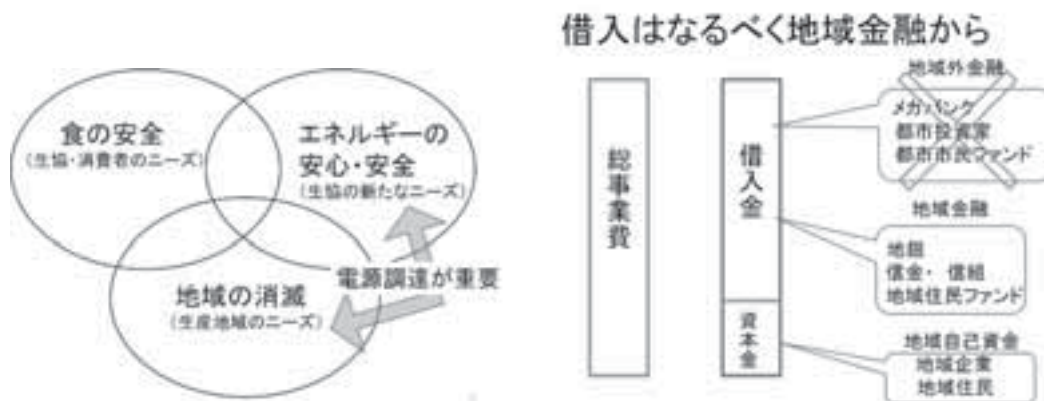
協同組合は、協同的に所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的なニーズと熱望を満たすため、自発的に結びついた人びとの自治的な組織。協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値を基礎とし。組合員は、正直、公開、社会的責任、他者への配慮という倫理的価値を信条とする。(国際協同組合同盟声明 1995 年)

*エシカル(倫理的)消費：環境保護や健康増進に加え労働問題や地域振興など社会的課題の解決につながる消費のあり方を示す言葉。消費の質を転換させる経済発展の一つの段階



【パルシステム東京新電力事業の実績は、時代のトップランナー】

- 生協で初めてグリーン新電力（再エネメイン）を創設・・・時代の流れをけん引
- 非営利団体で始めて新電力を創設（特高、高压電力自由化ステージ時代）
- 地域の利益にしっかりと配慮した電源調達（植民地型電力供給者からは原則として電気を買わない）



セッション1 資料7-1 「国の地方創生支援」

地方創生関連概算要求（平成29年度予算）について

資料1-3

① 地方創生推進交付金の確保

1,170億円

- 地方版総合戦略に基づいて地方公共団体が複数年度にわたり取り組む先導的な事業を安定的・継続的に支援。
 - ① 先駆性のある取組
 - ・ 官民協働や地域間連携、地方創生の事業推進主体の形成、中核的人材の確保・育成
 - （例）ローカル・イノベーション、ローカル・ブランディング、日本版DMO、生涯活躍のまち、小さな拠点等
 - ② 既存事業の隘路を発見し、打開する取組（政策間連携）
 - ・ 既存制度に合わせて事業を行うのではなく、地方公共団体自身が既存事業の隘路を発見し、打開するために行う取組
 - ③ 先駆的・優良事例の横展開
 - ・ 地方創生の深化のすそ野を広げる取組
- 本交付金を活用し、本格展開の段階を迎えた地方創生の取組を着実に強力に推進し、その裾野を拡大。

34

セッション1 資料7-2 「国の地方創生支援」

② まち・ひと・しごと創生事業費（地方財政計画）

1兆円

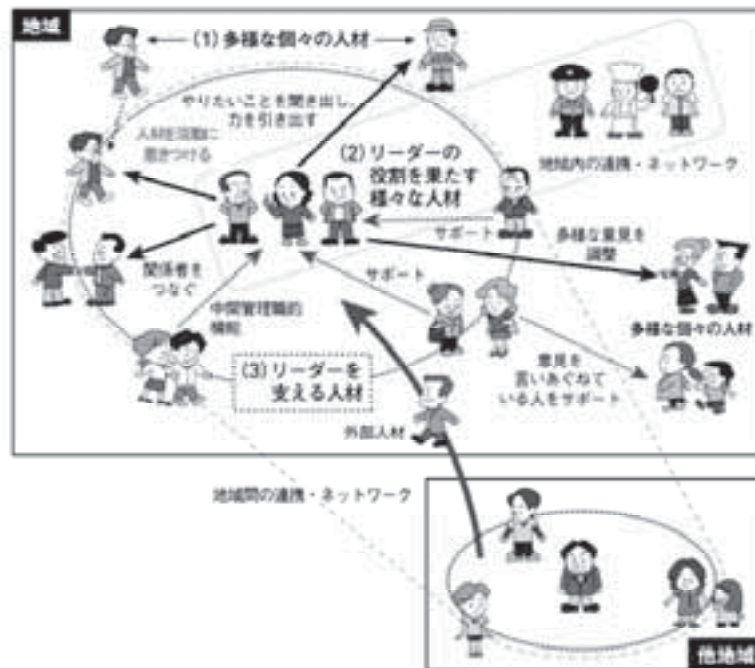
- 地方公共団体が、地域の実情に応じ、自主的・主体的に地方創生に取り組むことができるよう、平成28年度地方財政計画の歳出に、「まち・ひと・しごと創生事業費」（1兆円）を計上。
- 「まち・ひと・しごと創生事業費」について、少なくとも総合戦略の期間である5年間は継続し、1兆円程度の額を維持。

③ 総合戦略等を踏まえた個別施策（②の交付金を除く）

8,116億円

- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における政策パッケージごとの内訳は以下の通り。
 - i) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする 2,753億円
 - ii) 地方への新しいひとの流れをつくる 816億円
 - iii) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 1,380億円
 - iv) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する 3,167億円

セッション1 資料8 「地域づくりに求められる人材像」



出典：総務省人材力活性化・連携交流室発行「地域づくり人育成ハンドブック」平成26年度版